

日本洋書協会会報

BULLETIN OF JAPAN ASSOCIATION
OF INTERNATIONAL PUBLICATIONS

目次

●2005年度定時総会報告	1
●理事会報告	2
●ロンド・ブックフェア2005	3
●海外ニュース／委員会報告	4
●出版文化史逍遙(96) 洋書の歴史雑記帳(LI)	5

2005年度定時総会

2005年度定時総会は5月27日(金)午後4時よりブルスクラブ(東京都千代田区)にて開催された。

〔出席状況〕出席 31社
委任状 23社
計 54社

正会員61社に対して上記のとおり過半数の出席を得たので、協会規約第5章第30条の規定に基づき本総会は成立した。

松浦総務副委員長(丸善)の司会・進行により開会、正田事務局長より総会出席状況および会員動向が報告された。

村田理事長(丸善)の開会の挨拶の後、理事会及び各委員会の2004年度の活動内容が報告された。

理事会活動報告(グレシャム副理事長/U.P.S.)

1. 組織及び運営体制

2004年度は2003年度の役員が引続き担当した。会員数はこの1年間で正会員1社減・賛助会員1社増の結果、計70社で総数は変化無かった。

2. 定例会議

8月を除く各月1回の11回と特別会議を1回開催した。

協会の活性化が大きなテーマであり、特別会議を持ち若手の活用(賀川理事:若手の会発足)、セミナーの充実など方針とした。

また、各委員会活動についての報告を受け、中身の検証あるいは総括を行った。セミナーへの参加者を増加させる企画、著作権問題、ロゴの募集、東京国際ブックフェアへの参加などについて、その方針を確認しながら各担当委員会を支援して来た。

新田理事提案による会長職の新設についても話し合われた。

3. 経費削減

事務所維持費節減のため昨年9月に移転を完了した。

委員会活動報告(各委員長)

総務委員会

- ・事務局長が高橋氏より正田氏に交代した。(6月)
- ・関西地区会員との懇親会を行った。
- ・ロゴの募集、審査、決定を行った。

会報委員会

- ・製作費削減のため会報を4ないし6ページ建てとした。
- ・最後のページの広告については引続き会員各位を中心に投稿をお願いする。

広報委員会

- ・先期は3回のセミナーを行った。
- ・今期もより充実したセミナーを開催したいのでご意見、ご提案等を頂きたい。

事業委員会

- ・今年のTIBFは7月に開催され、バーゲンも例年通り実施する。
- ・神保町ブックフェスティバルに参加したが天候に恵まれず、実績は残せなかった。

ホームページ・ダイレクトリー委員会

- ・「ニュース」、「掲示板」を通じ当協会に関連する内外の話題を提供した。(約70件)
- ・2005年版ダイレクトリーは昨年同様の編集方針で制作した。

文化厚生委員会

- ・同好会の一部見直しを行っている。
- ・活動活発化のために多数の参加をお願いする。

議案審議〔議長:村田理事長〕

【2004年度決算報告】

関口総務委員長の内容説明の後、鈴木監事（三省堂）及び東條監事（南江堂）より監査報告があり、採決の結果2004年度決算報告は承認された。

【2005年度予算案】

関口総務委員長の内容説明の後、採決の結果2005年度予算は可決、承認された。

役員選挙

菅野選挙管理委員長から開票結果が発表された。

【理事】 当選 丸善(株)
U. P. S. 社
日本出版貿易(株)
(株)医学書院

次点 (株)雄松堂書店
日本洋書販売(株)
(株)南江堂
【監事】 当選 (株)三省堂書店
(株)医学書院
次点 (株)絵本の家
(株)ゲーテ書房
(株)友隣社

(株)医学書院が理事と監事に当選。規約により理事を選挙されたので、監事は次点の3社で決選投票の結果、(株)ゲーテ書房が当選。

以上ですべての議事を終了し、グレシャム副理事長の挨拶を以て2005年度定時総会を閉会した。

以上



理事会報告

日時：平成17年5月27日（金）

総会前理事会

1. 金原理事からの著作権問題について
新田・金原両理事から説明を受け、文化庁への抗議文に協会の署名を入れることを承認した。
2. 規約改正案について
執行部案を了承した。詳細は新理事会で引き継ぐ。

新理事会

1. 理事長、副理事長の選出
理事長：U. P. S. 社
副理事長：日本出版貿易株式会社
2. 推薦理事の選出
理事会推薦の会員に交渉する。

3. 委員会委員長の選出

委員会委員長

総務委員会：日本出版貿易株式会社
広報委員会：株式会社雄松堂書店
会報委員会：株式会社医学書院
事業委員会：日本洋書販売株式会社
ダイレクトリー・HP委員会：ユサコ株式会社
文化厚生委員会：U. P. S. 社
特別委員会：丸善株式会社
(注：) 特別委員会は規約改定等を担当する

4. 臨時総会（規約改定）

規約改定の臨時総会を7月15日のサマーパーティーの前行い、会長には村田誠四郎氏を推薦する。

ロンドン・ブックフェア 2005

ロンドン・ブックフェアはフランクフルト・ブックフェアほどの注目を浴びてはおりませんが、近年欧米の参加出展社の数が著しく増加し、そこで行われる取引商談もフランクフルトに似た状況を呈するようになって来たという情報に多く接するようになりました。事実、海外版元から弊社への参加問い合わせもかなり増えて来ました。今年はこういった状況の変化を考慮し、またフランクフルトからほぼ半年の間隔で開催されるという時期的な有意性を考えて、初めて参加いたしました。ブースなしの参加です。

フランクフルトは大体10月中旬の週末を含む5日間、ロンドンは3月上・中旬の日曜日から3日間を開催期間としていますが、出版社によってはフランクフルトも最初の3日間にアポを集中させようとする傾向にあります。また、フランクフルトは週末を業者以外の一般客に開放することを一つの名目にしてはいますが、ロンドンでは原則として業者あるいは図書館員の入場を旨としています。また版權仲介会社にも呼びかけて参加を募り、かなり広い場所を版權売買・商談のためにしつらえてあります。これらの特徴やフランクフルトとの性格の違いも展示出版社にとってのロンドンのメリットになっているようです。

ブックフェアの規模から言えばフランクフルトは圧倒的な大きさを誇っており、ロンドンはもとより他のブックフェアを大きく引き離しています。展示会社数で言えば、フランクフルトが6,691社に対し、ロンドンは1,810社ですから3倍以上の開きがあります。参加者・訪問者の数は一般客の扱いが違うので単純に比較は出来ませんが、フランクフルト270,413人（2004年）に対してロンドン24,000人（2005年）と公表されています。24,000人のほとんどが出版社や販売会社に働く人たちとすれば、あながち小さな数字ではないかも知れません。

今年は数えて第34回ということで、3月13日から15日の日程で、ロンドン市内の西方にあるオリンピック（Olympia）という見本市会場で開催されました。大きな建物1棟のみですが、2階が壁際に沿って部分的に使えるようになっています。地下鉄の駅がすぐ脇にあり、アクセスも良い場所ですが、参加展示社の増加に應え切れず、来年からはもっと広いエクセル



会場の入口

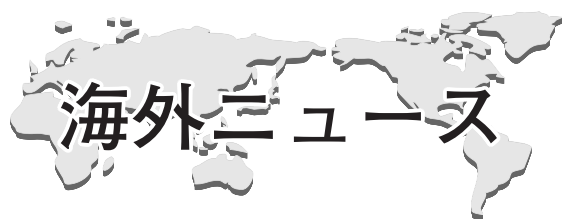
（ExCel）と呼ばれる見本市会場に移動し3月5日から7日の日程で開催されます。こちらはロンドンの東端にある新興地で、テムズ川の河岸を再開発したドックランド（Docklands）にあります。街外れでアクセスはやや悪くなりますが、新しい地下鉄が通っており、それほど不便のない所です。

ロンドンは物価が高く、短期滞在でも食事代などがばかになりません。地下鉄初乗り2ポンドというのもかなり割高感があります。フランクフルト・ブックフェアでの滞在と比べて唯一安上がりなのはホテル代です。勿論ロンドンのホテル代が決して安いわけではありませんが、ブックフェア期間の特別料金などが一切ないので、ご祝儀相場がまかり通っているフランクフルトよりは結局かなり安く感じます。因みにロンドン・ブックフェアの今年の入場料は、予約で10ポンド、会場その場では30ポンドとかなりの開きがありました。

（株）医学書院 乗原七男



2階からの俯瞰



◆… ブッシュ大統領のお勧め本

ブッシュ大統領はPerseus Book Groupの個人的なお勧め書評家(オブラ・ウィンフリー的な立場)になっている。昨年大統領はNatan Sharansky著The Case for Democracyを強く推薦した。この本はソ連から亡命後イスラエルの閣僚になった著者によるもので、ブッシュ政権の施政方針を如実にあらわしていると言われて評判になった。今回ブッシュ大統領が推薦するのは、同じPerseus Book GroupのThe Aquariums of Pyongyangだが、この本は前述の規模ほどの宣伝効果はなさそうだ。それというのも今回の本には大統領の政治観や記憶に影響を与える可能性が低いと思われるからだ。著者Kang Chol-Hwanは10年もの間北朝鮮の収容所に入れられていた新聞記者で、著作はその体験を綴ったものだ。 PW Daily JULY 7, 2005

◆… 大学出版局、Google Library Programに懸念

Harvard, Stanford, the University of Michiganなどの大学図書館の所蔵書をデジタル化するという

Googleの計画に対し、アメリカ大学出版協会(Association of American University Presses = AAUP)が懸念を表明している。最近Googleに送られた文書で、AAUPのMr. Peter Gilver, Executive DirectorはGoogleの計画は著作権を侵害する重大なおそれがあると述べ、デジタル化する本の刊行数を明らかにするよう求めている。彼は、ニューヨーク公立図書館やオックスフォードのボドレイアン図書館などに所蔵されている公共財産をインターネットを通して検索できるシステムというのは、途方も無く魅力的だが、同時に著作権に対する大規模な侵害をも起す可能性があり、AAUPのメンバーである出版社に多大な財政的な被害が及ぶことになると述べている。

John Wiley and SonsおよびRandom Houseなどの大手出版社もGoogleに対して懸念を表明しており、彼らの著者、顧客、ビジネス・パートナーなどへの影響について、より詳しく公開するようGoogleに要求している。GoogleのスポークスマンMs. Eileen RodriguezはAAUPに対し、出版社はプログラムを選択し、検索結果から自社出版物を除くこともできると指摘している。また、図書館でスキャンされる書物の著作権がGoogleに無いことは明かなので、著作権侵害に関してのGoogleの立場は強いとする法律専門家もいる。何故ならインターネットの公平性を保証する法律が事を複雑にしているからだ。いずれにしても議論ははじまったばかりである。

Author Link <http://www.authorlink.com> MAY 31 2005

委員会報告 <文化厚生委員会>

第117回 72会ゴルフコンペ

2005年5月28日(土) 天候 晴れ
会場: 桃里カントリー倶楽部 参加者: 12名(8社)

[成績表]	グロス	ハンデ	ネット
優勝 斎田利幸(三善)	86	13.2	72.8
2位 金原 優(医学書院)	85	10.8	74.2
3位 鶴 三郎(東亜ブック)	88	13.2	74.8
4位 小林謙作(医学書院)	82	7.2	74.8
5位 和田 茂(大洋交易)	92	15.6	76.4
バスグロ 西山幸児	80		
ドラコン 斎藤純生・西山幸児・小林謙作・和田 茂			
ニアピン 唐沢広憲・金原 優・小林謙作×2			

サマーパーティのご案内

来る7月15日(金)の恒例のサマーパーティが開かれます。

会場は外国有名人の記者会見場として有名なプレスクラブです。お楽しみに。

(文化厚生委員会)

洋書の歴史雑記帳 [LI] ドイツ学術受容の歴史(14)

鈴木陽二

◆シーボルトの来日(4) 門弟のドイツ学術摂取(Ⅱ)

大分県の中津市は江戸時代奥平家の城下町だった。今では城下町としての面影はほとんど失われてしまったが、それでもひととき目を引く赤塗りの土塀の続く寺町など華やきと静謐が交雑して妙に心を和ませる町筋、広大な天守閣を構えた旧中津城を目にするときなど、かつての豊前十万石中津藩の重厚・典雅なただずまいが想像されてくる。明治期最大の啓蒙学者で西洋文明の導入に貢献のあった福沢諭吉は、この藩の出身だった。彼は丸善の創業にも関わり、慶応義塾に学ぶ弟子早矢仕有的に西洋文物の輸入を商う商社の設立を勧め、しかも日本で初めての株式会社の形態を有する商社として立ち上げ、西洋式商業の実践を試みたのだった。ともあれ、その福沢諭吉の生家が中津に残されており、私が訪れた12月下旬の小春日和の中にわら屋根の母屋と、諭吉が勉学にいそしんだという土蔵が訪れる人も無く静まり返っていた。庭には色艶の良い大きな果実をつけた夏蜜柑の一本が立っており、その日本の原風景のような屋敷構えが、一幅の絵のように訪れる人の視界に染み入るのだった。なおこの生家の隣には資料館が併設されており諭吉ゆかりの品々が陳列されていて、彼の偉大な業績を一覧できる。

町を散策していると村上医家資料館というのが目に付いて入った。いつごろの建造物かはわからないが、古色な商家風の建物で、中に入ると医家としての村上家ゆかりの品々が所狭しと陳列されている。そこは患者の待合室と診察室だったようで、古い時代の医院の形を見ることができる。母屋から裏庭に出ると白壁の土蔵があって、その土蔵の前に「高野長英潜伏の土蔵」という掲示板が立てられていた。

だいたい前段が長くなったが、今回はシーボルトの高弟の一人として当時最高のオランダ語学者だった高野長英について、彼のドイツ学術摂取の様子をたどることにしたいのだが、その前にもうしばらく村上家や中津藩の蘭学について述べてみたい。

中津藩は蘭学への学問的気分が強く、後述するが、『解体新書』の訳者だった前野良沢が出自し、藩主昌高自身オランダ語を良くし、日本で最初の和蘭辞書(日蘭対訳辞書)の『蘭語訳撰』を家臣に命じて編纂させ、昌高自身その監修を行い、さらに『中津バス

ト辞書』(蘭日対訳辞書)でも監修を行っている。彼の蘭学好きは世に「蘭癖大名」とあだなされたほどで、彼自身シーボルトと交際があり、またオランダ商館長ゾーフからフレデリック・ヘンデリックというオランダ名をもらっていた。こういう歴代藩主の奨学の気風が藩に横溢していた関係か、中津藩の学統はまさに絢爛たるものであったが、今はそれに触れまい。

村上家は開祖宗伯が、大阪で医業を開いて当代随一の名医といわれ門弟3,000人を抱えていた古林見宜に医学を学び、免許皆伝を受けて中津で開業した。中村家7代の玄水は1819(文政2年)に九州で始めて(日本では26番目)人体解剖を行った医師で、帆足万里の序文で『解臈記』を著した。シーボルトが来日するや鳴滝塾に入塾し、高野長英とも同門となって西洋医学の研鑽を積み、2年後に帰藩して典医となった。

さて、1828(文政11年)に禁制品の搬出が発覚してシーボルト事件が起きたことはすでに触れたが、高野長英は身の危険を感じるやいち早く逃亡生活に入った。このときの逃亡経路は山陽道、東海道から仙台まで及んでいるが、北九州では長崎を振り出しに平戸・対馬、福岡から熊本・日田と周り、馬関海峡を渡って山口へ入っている。どの文献・資料にも長英が中津に潜入した記録はないが、中津では村上玄水の土蔵に40余日かくまわれたという。筆者は中津を訪れて始めて知ったのだったが、これは『大分県人物志』にも記されているとのことである。日田には1829(文政12年)春に訪れて広瀬淡窓の塾「咸宜園」に島道勇という偽名で入門しているが、その後に中津に潜入したのだと見られている。村上医家史料館の裏庭にある、長英が潜伏したといわれている土蔵には同家や中津の洋学に関係する資料が陳列されているが、その中には長英が持参して残していったという蘭文の書き物が陳列されていた。

しかし、高野長英が肥後熊本に潜伏してから本土に渡るまで医療活動を行いながら旅をしたことが彼の診療日記『客中証案』に記されているが、それには日田・中津に赴いたことがまったく記されていないので、淡窓の咸宜園に入塾したことを疑問視する学者もいる。〔参照文献：佐藤昌介『高野長英』／高野長運『高野長英伝』(元丸善・本の図書館長)

海外出張・海外見本市視察

～格安航空券＋市内ホテルのお得な自由日程旅行プラン～

★ *FRANKFURT BOOK FAIR*

開催時期：2005 年 10 月 19 日 ～ 23 日 開催地：フランクフルト（ドイツ）

旅行代金：＜10/18 出発 5 泊 7 日 航空券＋ホテル モデルパターン＞

- ・テルミナスホテル利用 ￥238,000
- ・インターシティーホテル利用 ￥265,000
- ・エクセルシオールホテル利用 ￥278,000
- ・モノポールホテル利用 ￥299,000
- ・インターコンチネンタルホテル利用 ￥310,000
- ・シュタイゲンベルガー・

メトロポリタンホテル利用 ￥338,000

※上記料金は、2 名 1 室利用お一人様利用の料金となります。

※ご出発日の変更や各ホテルの延泊、上記以外のホテル等をご希望の方は
お問合せください。

★ *HONG KONG BOOK FAIR*

開催時期：2005 年 7 月 20 日 ～ 25 日 開催地：香港

旅行代金：¥ 99,000～ ＜7/19 出発 3 泊 4 日 モデルパターン＞
＜キャセイパシフィック航空・ノボテルセンチュリーホテル利用＞

★ *BIBF-BEIJING INTERNATIONAL BOOK FAIR*

開催時期：2005 年 9 月 1 日 ～ 5 日 開催地：上海（中華人民共和国）

旅行代金：¥ 168,000～ ＜8/31 出発 3 泊 4 日 空港送迎付き＞
＜日本航空・ラディソンサスホテル利用＞

早割り航空券・ビジネスクラス・デイスカウトの手配や国内出張なども扱っております。

☆弊社では下記見本市の旅行手配を毎年行っております。

LONDON BOOK FAIR（ロンドン）

FRANKFURT BOOK FAIR（フランクフルト）

PARIS BOOK FAIR（パリ）

HONG KONG BOOK FAIR（香港）

BOLOGNA CHILDRENS BOOK FAIR（ボローニャ）

BEIJING BOOK FAIR（北京）

BOOK EXPO AMERICA（ロサンゼルス）

TAIPEI BOOK FAIR（台北）

お問い合わせ：株式会社ジェイワールドトラベル

JATA正会員（国土交通大臣登録旅行業第1359号）

TEL:03-3402-9955 / FAX:03-3402-9698 担当：藤代

URL:www.jw-trvl.co.jp / E-mail:tet@jw-trvl.co.jp